平成28年5月13日

産業厚生委員会

阿久根市議会

1. 日 時 平成28年5月13日(金) 11時26分開議
12時02分散会
2. 場 所 第2委員会室
3. 出席委員 仮屋園一徳委員長、白石純一副委員長、野畑直委員、
中面幸人委員、濱崎國治委員、牟田学委員、
山田勝委員、岩崎健二委員
4. 事務局職員 議事係主査 大漣 昭裕
5. 会議に付した事件
- ・地元企業の育成と商店街の活性化について
 - ・道路・河川等の危険個所の整備について
 - ・集落営農を活用した農業振興について
6. 議事の経過概要
別紙のとおり

議事の経過概要

仮屋園一徳委員長

ただいまから産業厚生委員会を開催いたします。本日は、これまで所管事務調査を行ってきましたが、これまでの調査を受けての委員の意見を取りまとめていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

まず1番目、まず初めに、地元企業の育成と商店街の活性化について、これまで株式会社瀬戸産業長島工場、上野食品株式会社へ視察に行き、意見交換を行いました。これについて委員より何かありませんか。

牟田学委員

実はきのう、瀬戸産業の社長と話をする機会があってですね、いろいろ話をしたんですけども、第3工場はできたと、ところが働く人が来ないということですね、どうしてもやっぱり雇用の問題が、設備投資をしてもですね、結局人材が集まらないということで大分悩んでおられましたので、この雇用問題をですね、今後やっぱりいろいろ考えて、どうできるかというのがありますけれども、この雇用問題が大分大切になってくるんじゃないかなと思います。

仮屋園一徳委員長

ただいま瀬戸産業についての御意見がありましたけど、ほかの方から瀬戸産業について御意見ありませんか。

白石純一委員

大変、私も拝見するまで、あれほどの最先端、世界に誇れる最先端の技術をですね、使って生産活動をされているということを改めて驚いたような次第なんですけれども、今、牟田委員からも出ましたけれども、せっかくだいい製造拠点があるにもかかわらず、従業員が足りないと、一方で若い人がよく阿久根に働くところがないから外に出ていくんだということも言われますので、やはりその雇用者と被雇用者のミスマッチをなくすためにやっぱり我々議会、市、行政もですね、何とかその解消に向けて協力していかないかん、そんだけの資源を無駄にするのはもったいないなというのを強く感じています。

仮屋園一徳委員長

ちょっと休憩にここで入ります。

(休憩 11:29～11:30)

仮屋園一徳委員長

休憩前に引き続き会議を開きます。

山田勝委員

私は瀬戸産業のことについてはですね、牟田さんが頑張ってやっていますのでね、上野食品のですね、行って、現実に上野食品のタケノコ工場で生産させるタケノコというのは、全国一の缶詰量を誇ると、そしてまた阿久根はですね、上野食品とタケマンのタケノコというのはほとんど阿久根のが多いんですよ、そして今のマツバラも。そういうことからしたら阿久根はタケノコの町だという気がしますよ。ですから、

どっかですね、阿久根はタケノコ日本一の町だという看板をですね、建てて、それで村おこしの一環としてですね、これは何でかと言いますと、そこを阿久根を通る人もだけど、あわせて市民もですね、この誇れる、阿久根を誇れる一つの共有するためにはですね、やはり毎日目に入る。通れば目に入るようなところにちゃんとした大きな看板をね、阿久根市がちゃんと一緒になってですね建てて、建てるということをぜひこれは提案して欲しいと思います。

岩崎健二委員

瀬戸産業については、製造業については、出水の職安に何うと毎月2,000人からの失業者の職を求める人がおりながら、なかなか人材が集まらないという状況であるみたいですね。それによって仕方なく外国の研修生を受け入れざるを得ないという状況があるみたいですので、ぜひそこは白石委員が言われたとおり、何とかして雇用のミスマッチをなくする努力をしなければいけないのではないかなというふうに考えます。

それから、タケノコ生産につきましては、阿久根市は非常にいろんな補助事業が生産者に対する補助事業があるんですが、この補助事業がなかなか生産者に、全ての生産者が知らない部分があって、その生産者に対する補助事業の周知徹底を図っていけばまだふえるんじゃないかなと思っております。それから竹材の補助金があるんですが、今のところ補助金を入れて9円、キロ当たり9円ということで、阿久根市だけがやっている事業であるんですが、採算性からいった時にどうしてもあと1円、なんとかならないかなと、10円になったら採算がなんとか取れるという状況ですので、補助金の要求をしたらどうだろうかというふうに考えております。

以上です。

牟田学委員

岩崎委員の関連でですね、実はこの間、新聞を見ておったら、さつま町がですね補助金を2.3円に上げているんですよ。だからさつま町が9.3円か、阿久根市もですね、やっぱり今1.5円ですけど、それをどうにかですね、10円まで上げていかんと。何でかと言いますと、工場はああやってやってるんですけど、上野食品はですね。でもタケノコが来ないことにはできんわけで、今のその竹山も高齢化が進んでなかなか整備が進まんと、そういった中でやっぱり竹チップにしても補助をもうちょっと上げてですね、せめてキロ10円ぐらいにするようにしていかなとなかなか回っていかんと思います。そこらあたりをですね、ちょっと言っていかなにかんあと思っています。

中面幸人委員

上野食品だけに特化するわけなんですけど、この、先ほど山田委員のほうから言われたように、阿久根はタケノコの産地、全国一位と言ってもいいぐらいというふうに私もそういうふうに上野食品の工場であってもそういうふうに思っておりましたけれども、ただ私が思うにはですね、こういう加工場がですね、いわば人を雇用したりとかそういうのもなんですけど、やはりその加工する物を出すですね、今タケノコですよ。私はこのタケノコがですね、やはりそれぞれ高齢者の方が掘って出しますよね、そうすると値段が急激に落ちたりとかですね、するわけですよ。その辺あたりをやはり、今度は生産者側の立場になってですね、例えば、ある程度の時期まではその採算が取れるような単価をですね、そこまでやっぱり私はやらないといけないのかなというふうに、前から私はそう思っておったわけなんですけども、例えば、加工の時期になればもうぐうっと下がってしまうんですよ。そんな時にやはりなかなかもう合わなかったりして、そういうのがあると思うんですよ。だから、そこまでやっぱり単価面まで、その流通関係もあ

ろうかと思うんですけどもですね、やはり産地として工場もですけど、やっぱり生産者のそういう単価面までいろいろ考えるべきじゃないかなと私は前から思ってたんですけど、その辺あたりもやっぱり今後取り組んでいくべきじゃないかなというふうに思っておりますけどどうでしょうか。

仮屋園一徳委員長

はい、今、中面委員からタケノコの値段の安定化ということで意見が出ました。それについて、またそれ以外について、委員の皆様からの御意見を伺いたいと思います。

濱崎國治委員

私は具体的なタケノコの価格ではないんですが、地元企業の育成ということで先ほど瀬戸産業の話もあったし、それからハローワークの話もあったとおりでですね、やはり企業が発展していくためには生産性を上げないかんだろうし、あるいは生産量をふやしていかないけないというのもあります。今、非常に求人側にしてもなかなか採用しようとしても来てくれないという状況がありますので、もう具体的に雇用する事業所に対する支援と、就職者に対する具体的な支援をもうやっていかないといけない時に来ているんじゃないかなというふうに思います。特に出水にしても、薩摩川内市にしてもですね、そういうのを実際やっておりますので、阿久根市についてもやはり今後の人口減少に少しでも歯止めがかけられる、緩やかな人口減少にするためにもですね、やはり働く場の確保ということからしても両方に対するですね、雇うほうへの支援、雇われるほう、いわゆる就職者への支援、双方からやっぱりやっていかないといけないのではないかなと思いますので、ぜひそういう意見をですね、特に行政側にも訴えていく必要があるんじゃないかなというふうに思います。

仮屋園一徳委員長

地元企業の育成と商店街の活性化について、ほかの議員から意見はありませんか。

山田勝委員

私は近頃ですね、私の知り合いの子供が結婚するというので、「阿久根に住むどかい」と言ったら、「いや阿久根には住まん」と、「どけ住んど」、「いや出水に住む」、「なんでよ」と言ったら、「阿久根はもう個人の住宅がたこしてな」って、「住宅の家賃がたこしてって、もうあげんたっかればもうおろごんなかでや」って、やはりその家賃をどうにかですね、下げる方法を考えてくるれば、私は阿久根に住もうという人も出てくると思いますよ。だから個人の住宅についてもその家賃を、個人の住宅が下げならんたっで、例えば市有地があるんだったらその市有地をですね、安く販売して、そこに家を建ててもらおうとかいうふうに、その住宅を、安い住宅を提供できる仕組みをつくることもいいことかなと思いかたでした。

仮屋園一徳委員長

今、住宅の家賃の話が出ました。一応ですね、また、ほかにも御意見があればまた文書等でもいただきたいと思います。

山田勝委員

住宅をですね、借りる借家の家賃を下げるということにはね、いろいろつくった人も利益を目的につくった人もいるから問題もありますよ。問題があるんだけど、阿久根に住んでくれる人がおればな、例えば阿久根が家賃が安いから阿久根に住んだ人もおれば、働きたいという人も出てくるわけじゃないですか。婿どんも、奥さんもですね、だからそういう意味でな、総合的にやっぱり考えにゃいかんという気がするんですよ、近頃、若い人が結婚して阿久根に住まないという人の話を聞けば。だから何ですか、結婚して

住んでですね、住宅手当をもらえる企業と、もらえない企業とあるでしょ、住宅手当をもらえるところはいいんですよね、半分は住宅手当をくらったつがとかいうところはいいですよ。でも、住宅手当をもらなるとこはまんまる出さないかんで、安かところに行くとなるんだよな。だからそれはもうつくっている人も、今、業をしている人のためにもいかんかもしれんどんからん、私はそいもやっぱり考えてやらないかんと思うよ。

仮屋園一徳委員長

今の意見は雇用拡大のためには家賃がちょっと高いんじゃないか、家賃を下げる努力をしていったら雇用もふえてくるんじゃないかという御意見ですが、ほかに。

山田勝委員

いや、働く人がね、阿久根に住んでいけば近いところに勤めるじゃないですか。

中面幸人委員

地元企業の育成に関しての調査ですよ。今、今回は瀬戸産業と上野食品を見に行きましたけれども、まだほかにもいろいろありますよね、地元には、魚の加工にしろ、それからまた建設業にしろですね、ありますよね。この辺あたりですね、行政側としては、それぞれの産業のですね、例えば企業の数とかですよ、この地元でやっていけるような、そういう建設業でいけば仕事の量とかありますよね、それぞれの企業が努力をしないかんわけですけども、その辺あたりの把握というのがですね、なかなか行政側としては、できていないような気もするんですよ。例えば建設業で言えばですよ、例えば、去年の12月の議会でも山田委員のほうからも言われましたけれども、それこそ3月まで仕事ほとんどなかったですよ。当然国からの補助なんかはカットされたりとかいうこともあったかもしれせんけれどもね、やはり今、隣の市町村からもこういう、隣しかわからないので、比較した場合ですよ。その辺あたりのやっぱり相当差もあると思うんですよ。その辺あたりをやはり行政がしっかりと認識しないと、それはもう大変だなという気がしますけれどもね、その辺はどうなのかな。その辺なんかも議会なんかでしっかりとやっぱり検討していかないとどうかなと思うんですけどね。

仮屋園一徳委員長

今言われたような意見もですね、今後の委員会等で検討、委員からの意見があれば検討していいと思いますが、きょうについては、皆さん方に前もって文書を配付しましたのは、きょうの日程を配付しましたのは、今まで企業を視察した分についての取りまとめということを中心にしたと思いますので、よろしくお願いします。

[中面幸人委員「失礼しました」と発言]

次にですね、道路・河川等の危険個所の整備について、これまで所管課である都市建設課及び北薩地域振興局建設部土木建築課を呼び、調査を行いました。これについて委員の皆さんから意見を伺いたいと思いますが、その前に委員から先ほど要望のありました、次に河川課の担当の方を呼んだらということで、要望をしておりました。都市建設課を通じて要望しておりますが、中身については都市建設課長のほうで県と協議をしたところ、内容については非常に難しいんじゃないかという意見は何っておりますけれども、その難しい面をば進めていくのが本調査の意味だと思いますので、それについては今後調整をしながらできるだけ早い機会に話し合いができるようにしていきたいと思っております。それでは、この件について皆さんから御意見があればお聞かせください。

山田勝委員

県議にはちゃんと出したんですか、陳情書は。

仮屋園一徳委員長

はい、出しました。

山田勝委員

だからこれはですね、事務レベルでできないのは県議がですね、政治レベルでやらな
だめなんですよ、だからそれをわかってもらわないと絶対に進みませんよ。

牟田学委員

出されたはずなんだけど、その結果がわからないのでどうなっているのかなと。

仮屋園一徳委員長

まだ、話し合いはしたんですが、まだ結果については聞いてませんので、今後の進め
方についても話し合いをしました。できればですね、一緒に行って、そういった担当課
に説明をしたいというところまでで今終わっております。

山田勝委員

まだですね、それは3月のことですからね、そんな早く結論が出る話じゃないですよ。
ただ、私が言いたいのはですね、事務レベルでだめだとわかってしまったら政治レベルで
してくれちゅう話ですよ。

仮屋園一徳委員長

ほかにありませんか。

なければ次に、集落営農を活用した農業振興について、これまで所管課である農政課
を呼び、また瀬之浦水稻農作業受託組合へ行き意見交換を行いました。これについて
委員の皆さんからの御意見を伺いたいと思います。

中面幸人委員

これやはりですね、農業の、このいわば働き手がですね、高齢化していく中で、やは
りその集落営農とかですね、受託組合とかつくっていかないと当然もう耕作放棄地はふ
えていくというのはわかっていると思うんですよ、ですよ。だからそういう中で、や
はり行政が主導していかないと私は進まないと思っています。今、阿久根でも2地
区ですよ、瀬之浦地区とあと1つかな、ありますよね。だから行政が今後ですよ、こ
こ何年間の間に、例えばどのような方向で考えているのか、その辺をやっぱり今度はそ
れに対してやっぱり議会がどのような形でしてというのをですね、していかないと、絶
対に、もう農業をやってる、いわば生産者サイドだけではですね、私はできないとい
うふうに感じましたよね、本当に。この辺あたりを、果たしてそれには農業者がですよ、
どのように考えてるのかも大事ですけどね、甲佐町に認定農家の視察に行きましたけれ
ども、あそこではもう全町がですね、一斉に取り組んだんですよ。ここの場合は今よ
く聞けばですね、農政課長なんかの話を聞けば1年に1地区ぐらいをモデルにしてい
こうとかいうふうに話もされましたけれども、それはだんだん年齢も高齢化が進んで行
く中でですね、実際、現在働いている元気な人たちがいる間に話は進めていかないと、も
う新しく若い人たちがですね、経験ない人たちに話をしたって全然始まらない問題だと
私は思いますよ。だからこの辺はある程度やっぱり行政の考え方というのがですね、や
っぱり方向性が大事じゃないかなと思いますので、その辺が（聴取不能）詰めてみる必
要があるんじゃないかなと思いますけど。

仮屋園一徳委員長

もうちょっと農政と行政で、担当課である農政課と話をしたいということでよろしい
ですか。

[中面幸人委員「ですね」と発言]

瀬之浦水稻農作業受託組合については、現地でもありましたように、現在は田んぼだ

けをしているということで、畑についてはすればいいんだろうけど、畑まではいかないというような説明でしたけど、その辺を含めて皆さんからほかに御意見があれば。

[「ないです」と呼ぶ者あり]

では、なければこれについては終わりたいと思います。

次に、海を活用した観光行政と宿泊設備の整備については、特段まだ調査を行っていないところです。それでは、本日出ました意見とこれまでの調査の中で出ました意見を取りまとめまして、第2回定例会で中間報告をしたいと思いますが、先ほども申しましたように、現地での意見、きょう出ました意見等を踏まえ、第2回定例会で中間報告をするということに御異議ございませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

異議なしと認めます。なお、委員長報告につきましては、委員長に御一任願いたいと思いますが、これに御異議ありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

異議なしと認めます。

それでは次にその他ですが、委員から何かありませんか。

岩崎健二委員

今、西回り自動車道のサービスエリアについて、商工会議所から請願が出、議会も採択をして動いているところですが、なかなか先に進まないような気もしております。そこで、産業厚生委員会の所管事務調査に追加し、いろんな先進地の視察とか、あるいは現場の視察とかというのをやっていったらと思いますが、そういうことが、これから追加することが可能なのかどうか皆さんにお諮りしていただきたいと思います。

[「追加していいんじゃないですか」、「異議ありません」と発言する者あり]

仮屋園一徳委員長

ここで休憩に入りたいと思います。

(休憩 11:54～12:00)

仮屋園一徳委員長

休憩前に引き続き委員会を開催いたします。

先ほど出ました所管事務調査についての御意見を伺います。

岩崎健二委員

当委員会の所管事務調査に西回り高速自動車道におけるサービスエリアの整備促進についてを所管事務調査に追加して、やれたらと思いますので皆さんの御意見を伺います。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

仮屋園一徳委員長

異議なしということで、名称を南九州西回り自動車道サービスエリア等建設に関する調査ということでよろしいですか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

なければそのように取り計らいたいと思います。

山田勝委員

あとちょっと、阿久根のよ、道の駅あくねの整備拡充について、これは地元業者育成というのひっかけてかんまんど。阿久根の業者の方々、私たちの売るところをつくってくださって言わったって、そのために、道の駅あくねの整備拡充をね、せないかんね

と思うから現地調査をして検討したいということを提案します。

濱崎國治委員

今の意見は地元企業の育成と商店街の活性化、これに関連づけてしたらどうですか。

[山田勝委員「してくるうぎそれでよかど」と発言]

白石純一委員

山田委員がおっしゃるのは今の道の駅の拡充ということですよ。

[山田勝委員「そうですよ」と発言]

そうするとサービスエリアとの関係も当然出てくると思いますので、そこも、サービスエリアのほうにも関連されると。

山田勝委員

サービスエリアはしていいじゃないですか、それはそれ。私は今をどうするかというのは、手の届くところからせないかんでこう言うところだよ。

濱崎國治委員

ですから、特別にそれをするんじゃないで、この一環とすれば両方がうまくいくんじゃないですか。

[山田勝委員「一環でやってくれればそいでよかんよ、夢は語るごんなかでや、でくつとからせな」と発言]

仮屋園一徳委員長

では、今意見が出ました道の駅あくねの件につきましても今後の調査としたいと思います。ほかにありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

なければ、以上で本日の産業厚生委員会を閉会いたします。

(散会 12時02分)

産業厚生委員会委員長 仮屋園 一徳